

## ペットの『同行避難』…日ごろからの備えが大切です

災害が発生したら、ペットの飼い主はまず、自分自身の安全を確保してください。飼い主が無事でなければペットの安全を守ることはできません。ペットに関する防災の基本は、飼い主が責任をもって対応することです。避難が必要な場合は、原則としてペットを同行して避難することが重要です。

### ペットの『同行避難』とは

災害の発生時に、飼い主が飼養しているペットを同行し、避難所等まで避難することです。同行避難とは、ペットと共に移動を伴う避難行動をすることを指し、避難所等において飼い主がペットを同室で飼養管理することを意味するものではありません。



ペットは、居室ではなく、基本的には避難所の外で飼育していただくこととなりますので、避難の際にはケージやキャリーバッグ・雨カバーなどの持参をお願いします。



### 【避難所敷地内のペットスペースの例】

自転車置き場・屋根や壁がある渡り廊下・屋外階段の下  
軒の深いテラス・倉庫 など

また、どのような状況下においても必ず同行して避難しなければいけないというものでもありません。自宅が安全であり、定期的にペットの世話をするために戻れる状況であるのであれば、避難所に連れて行かないということも選択肢のひとつです。ただし、その場合も、毎日の食事と健康状態の確認が大切です。

小型犬、猫、小鳥、小型のネズミ、リス、ハムスター等の一般的なペット以外の動物は、避難所での受け入れが難しい場合もあります。状況によっては、同行避難が難しい事態も考えられるので、万が一のときの預かり先を確保しておくことも大切です。

身体障害者補助犬法で定める盲導犬、介助犬及び聴導犬（以下「補助犬」という。）は、補助犬を使用する避難者（身体障害者）と同じ居室での受け入れを行うことができるように配慮します。

## 日ごろからの備えが大切です

災害はいつ起こるかわかりません。いざというときに適切な対応ができるよう、日ごろからの備え・心構えが重要です。

また、ご近所との良好な関係は、災害発生時にも役立ちます。

### 【避難所の確認】

普段から家族でペットと一緒に避難ができる最寄りの避難所や避難経路について確認しておきましょう。

個別の避難所に関してはお問い合わせください。

### 【身元表示】

突然の災害に驚いてペットが逃げ出してしまう、飼い主と離れ離れになってしまう可能性もあります。はぐれてしまったペットが飼い主の元に戻れるよう、身元表示をしましょう。



※犬は鑑札及び狂犬病予防注射済票の装着が法律により義務付けられています。

### 【健康管理】

同行避難した先では多くの動物が集まり、自分のペットが他の動物と一緒に過ごすことになるかもしれません。また、慣れない環境で過ごすストレスから体調を崩すこともあります。感染症の蔓延を防ぎ、ペットの健康を守るためにも日ごろからの健康管理が重要です。体を清潔に保ち、狂犬病予防注射（犬）やノミなどの駆除を行いましょう。



## 【しつけ】

安全かつ速やかに避難できるように、また、避難所において周囲に迷惑をかけるないように、普段からしつけを行い、飼い主がきちんとコントロールできるようにしましょう。いざという時に動物のストレスを少なくすることにもつながります。

## 【排泄物の処理】

排泄物の処理は、飼い主が責任をもって行い、避難所の環境維持に努めましょう。



## 【防災用品の備蓄】

ペットのための備えは飼い主の責任です。最低でも3日分、できれば5日分を目安にペットの防災用品を備蓄しておきましょう。

### ◆防災用品の例

- ・ ペットフード及び水
- ・ ペットの常備薬
- ・ 食器
- ・ トイレ用品（ペットシート、猫砂など）
- ・ 首輪及びリード
- ・ 健康の記録（既往歴、ワクチン接種歴がわかるもの）
- ・ 写真（飼い主と一緒に写っているもの）
- ・ ケージ、ペット用キャリーバック（ケース）
- ・ その他（ガムテープ、おもちゃなど）